

## [実践記録]

## 自己指導能力を育む「社会に開かれた教育課程」の構想

～キャリア教育の視点から行うカリキュラム・マネジメント～

上 畑 直 久

## 要 旨

栗陵中学校の学校教育目標に掲げられている自己指導能力とは、「この時、この場で、どのような行動をとることが適切であるか、自分で判断して行動する力」である。昨今、家庭環境などの様々な要因から、義務教育後にできる限り早く自立することが求められる子供の数は増えている。自己指導能力は、自己実現・進路実現を図るために必要な資質・能力である。そこで、キャリア教育の視点から、自己指導能力を育むための教科横断的な教育課程を、特別活動・総合的な学習の時間を軸に構想した。課題解決の過程を繰り返し体験させたり、外部の人材と交流したりすることを通して、自分にとっての「ロールモデル」をもつことができるようになる。また、自己決定をする場を設けること、自己有用感をもてるようにすること、協働的に取り組む機会をつくることに留意した結果、共感的な人間関係が育まれてきた。

## 1. はじめに

栗陵中学校区は、京都市の南東に位置し、幹線道路沿いに商業地、住宅地が混在する地域である。近くには、豊臣秀吉が醍醐の花見を催したことで知られる「醍醐寺」があり、京都と奈良を結ぶ旧街道沿いには、明智光秀遭難の地といわれる「明智藪」など、史跡も多い。一方、近隣を流れる山科川沿いには、集合団地が数多くあり、近年そこに暮らす人々の高齢化や、転出入が繰り返されることによる地域連携の希薄化が指摘されるようになっている。なお、本地区は、中学校1校、小学校3校で構成されており、各小学校区の特性もさまざまである。

栗陵中学校は、生徒数315名が在籍し、1年生3クラス、2年生3クラス、3年生4クラス、育成学級3クラスで構成されている。本校の教育目標は、「豊かな心を持ち、未来を切り拓く人を育てる」である。そして、この目標の実現に向けて、本校ではキャリア教育の推進に取り組んでいる。なお、キャリア教育とは、「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」のことである。

## 2. 本校の課題とキャリア教育を推進する理由

本校が抱える課題は、大きく次の3つである。

1つめは、生徒・保護者の背景について、就学援助率が高く、いわゆる「相対的貧困」にある家庭が存在する点である。また、一人親家庭の比率も高い。昨今、日本における子供の貧困率の上昇が指摘されている。子供たちが、経済的な理由から教育を受ける機会を失っていないか、時としてその背景に潜む虐待やDVなど、生活環境の不安定要因に影響されていないか、本校では細心の注意を払っている。

2つめは、特別支援教育の視点から適切な学習支援を必要とする生徒の比率が高い点である。本校では、平成22年から数年間、生徒指導について厳しい状況が続いていた。これまでには見られなかった、指導に全く従わない生徒が現れ、その対応に苦慮していた。人間関係づくりがうまくいかない生徒の背景には、被虐待やDV被害などによる愛着障害なども想定される場合がある。問題行動を繰り返す生徒の実態をみるうえで、学習面や生活面での「困り」を把握し、「相対的貧困」も含めた様々な環境要素を読み解きながら支援の方法を探ることを、本校は求められてきた。

3つめは、多様化する社会への対応である。本校には、中国帰国子女をはじめ、フィリピンや外国につながるのある生徒が多数在籍している。このような背景のある生徒に対し、本校では日本語指導教員と母語支援員が配置されており、抽出授業を行ったり、入り込みで付き添い支援を行ったり、放課後の日本語教室で母語支援を行ったりしている。しかし、国際結婚や保護者の都合で来日し、本校に転入するケースは増えており、実態はさらに多様化している。

3つの課題に共通していえるのは、発達課題といった生徒の内的要因もさることながら、経済的な理由や生活環境の変化といった外的要因によるものが多いことである。だからこそ、義務教育終了後の社会で生き抜くためには、彼らができる限り早く自立し、自己実現・進路実現を図るための資質・能力を身に付けることが求められる。

次頁の枠内は、本実践で対象とした平成27年度入学生の1年生時の状況と課題である。

なお、この調査結果は、筆者が担当する社会科の授業で、学期末ごとに行う振り返りアンケートと、定期テストの結果を基に分析・考察したものである。このアンケートは、家庭学習の視点から生徒の学習意欲を調査・分析する目的で行っている。

ここからわかることは、学習意欲がわからない子供の固定化と、その背景にある家庭による支援の難しさである。特に、家庭学習のことで家の人からアドバイスをもらう点では、「まったくしてもらわない」「あまりしてもらわない」の否定的回答が59.6%であった。

一方で、家庭学習の必要性や努力に対する価値は認めており、頭で分かっているも身体がついてこない状況が続いていると考えられる。

### 現状と課題 平成 27 年度入学生（平成 27 年 12 月調査）を対象に

- ①学力下位 25%の固定化…授業中も学習の仕方がわからず、集中力が維持できない。意欲がわかない。
- ②「家庭学習時間“0”」30%の固定化  
…全国調査結果 18%、家庭学習習慣がない。意欲がない。
- ③「家庭学習についての家の人からのアドバイスが全くない」33%  
…全国調査 22%、家庭学習環境未整備
- ④「家庭学習は必要」肯定的回答 92%  
…全国調査結果 91%、必要性は意識（社会常識の範囲か）
- ⑤「学習塾、家庭教師を利用していない」55%  
…全国調査結果 36%、経済的問題
- ⑥「あなたは授業中に苦手なものでも努力をすればできるようになると思いますか」  
肯定的回答 84%…全国調査結果 83%

注：平成 28 年版指定都市教育研究所連盟の調査結果<sup>[1]</sup>と比較

- ・学力向上を図る以前に、学習に対して肯定的なイメージをもてる取組を考える必要がある。
- ・家庭や地域にロールモデルを求めることが難しい。
- ・家庭からの支援を求めることが難しい。
- ・学習の必要性や努力に対する肯定観はもっている。

そこで、本校の学校教育目標に掲げる「自己指導能力」の育成を図れば、生徒の学習意欲を高めることができるのではないかと考えた。次の枠内は「自己指導能力」の定義である。

#### 学校教育目標から

自己指導能力とは、「この時、この場で、どのような行動をとることが適切であるか、自分で判断して行動する力」である。そのために、①自己決定の場を与えること、②自己有用感を与えること、③共感的な人間関係を育成することが大切である。

自己指導能力は、自己実現を図る上で欠かせない力である。自分の進みたい進路は何かを考え、そのために必要なことは何かを見通し、実現に向けて必要な情報を集めたり、必要な力を身に付けたりする。さらには、仲間と協力しながら課題を解決する取組に臨む（協働する）ことで、必要に応じて適切な選択や判断を行ったり、解決に向けて粘り強く取り組んだりすることも大切である。その上で、互いに取り組んだ成果を振り返り評価することで、次なる取組に向けて課題を見通すことができれば、「この時、この場で、どのような行動を取ることが適切であるか、自分で判断して行動する力」が育つと考えた。

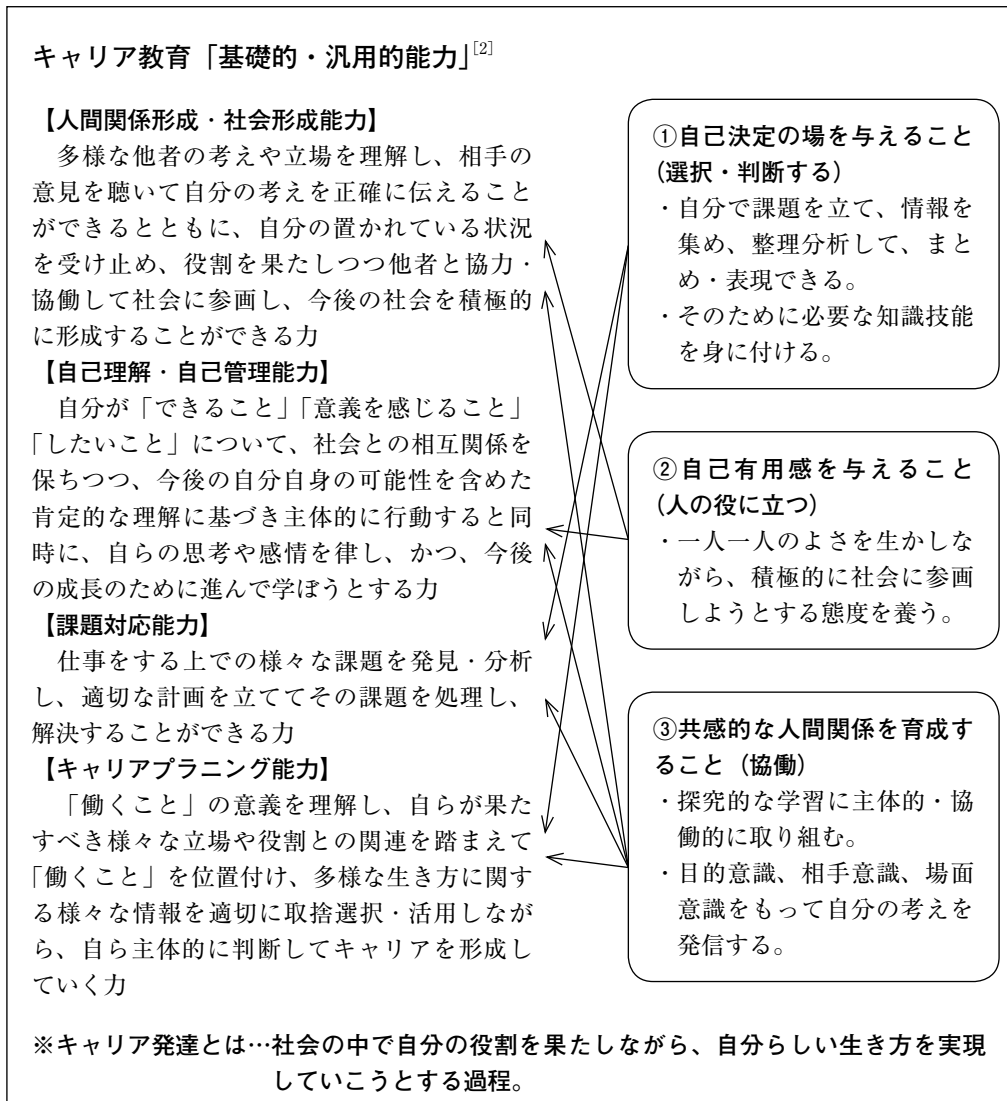


図1 「自己指導能力を育成する上で設定する3つの場面と、キャリア教育の基礎的・汎用的能力」

図1は、自己指導能力を育成する上で設定する3つの場面と、キャリア教育の基礎的・汎用的能力を対応させたものである。「自己指導能力」を育む3つの場面を、教科等に設定し、これらの場面で、課題解決の過程を繰り返して体験し、必要な思考の方法や判断の基準、表現の方法を身に付けるとともに、目的意識・相手意識・場面意識をもって自分の考えを発信する力を身に付ける。ただし、これらの力を一人で付けるのは無理なので、活動にして取り組む機会と環境を整備する。そのため、リーダーの育成を進め、リーダーを中心に協働して主体的に取り組む力を付ける。

本実践は、筆者が平成27年度に本校へ1年生の学年主任として赴任して以来取り組んできた、特別活動・総合的な学習の時間を軸とした学習活動の記録である。活動内容は、キャリア教育の視点から構想し、生徒に自己決定の場を与え、自己有用感や共感的な人間関係を育むことで、生徒の自己指導能力を高め、学習意欲や家庭学習を含めた主体的な学習態度の育成を図ったものである。また、活動を始めてから3年目を迎えたこともあり、活動を教科横断的に取り組む教育課程の試案として整理し、紹介する。

### 3. 具体的な取組

「自己指導能力」を育む具体的な取組を設定する上での留意点を次の枠内に示した。

- 地域、家庭との連携・協働により「社会に開かれた教育課程」を構想する。
- 教科横断的なカリキュラム・マネジメントをすすめ、教科等相互の内容や効果を生かした教育内容や活動を設定する。
- 地域等の外部の人的・物的資源等を活用し、子供たちにとってのロールモデルを提供する。

「社会に開かれた教育課程」は、学校だけでなく地域や家庭とともに子供たちの力を育むための教育課程を構想することを目指している。主体的・対話的で深い学びの実現ための方策や、教科等の学びがどう連携し、効果的に生きて働くかを共有することで、教科等の知識・技能を生かした特別活動や総合的な学習の時間を設定する。また、より多くの場面でロールモデルとなる人材と交流する機会を設け、自分にとって具体的な行動や考え方の規範となる人物を見つけることができるよう活動を計画した。図2-1は、特別活動と総合的な学習の時間を軸とした教科横断的な教育課程の例である。

課題解決の過程では、見通しをもって取り組み、課題解決の後に振り返りを行い、次の学習に生かすことを留意する。また、教科との関連や外部の人材との連携を効果的に計画する。さらに、リーダー育成を促すため、学習の単位ごとに実

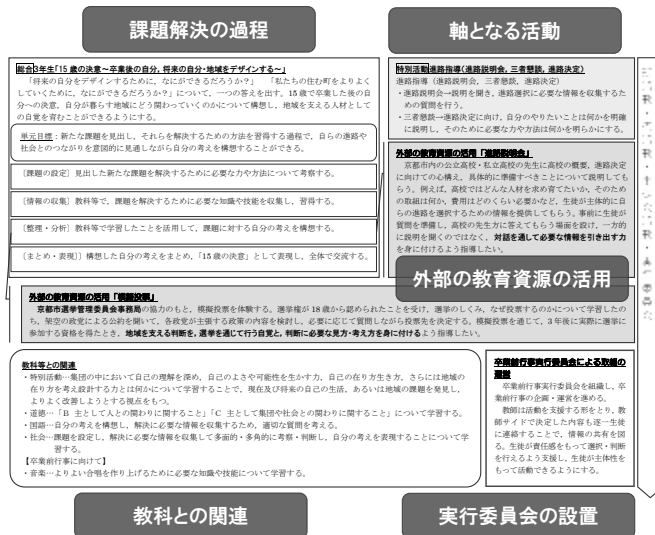


図2-1 「特別活動と総合的な学習の時間を軸とした教科横断的な教育課程の例」

行委員会を設置し、活動の核となる生徒を育てる。課題解決のスキルや外部の人々と交流するための心構えなど、生徒の代表として必要な資質・能力を育てると共に、小さなロールモデルとして、他の生徒の模範になるように指導する。実行委員会は活動の中心を担うため、活動の一つ終えたときの達成感や成成感は一とおである。それが、次の活動への意欲へとつながることを期待した。次項からは、それらの実践について紹介する。

## (1) 先輩に聞こう

図2-2は、平成27年度入学生が1年生から3年生までの総合的な学習の時間の単元計画である。

この単元計画の特徴は、自分たちが課題解決する範囲を、「自分⇒班⇒クラス⇒他学年・他校種⇒自分たちの暮らす地域⇒その他の地域」と広げている点にある。1年生最初の校外学習では、自分や班の仲間、クラスの絆を深めるためにはどうすればよいかを考える。

そこで得た秘訣は、次のチャレンジ体験（職場体験）学習に引き継がれ、実際に働いておられる方から、「働くとは何か」という課題を解決するうえで生かされる。その際、外部の教育資源の活用として、本校出身の中学校の先生に来ていただき、なぜ教師になったのか、教師を目指したのかについて語っていただいた。今も地元から通われている先輩の言葉は、生徒たちにとってとても身近なものとなった。

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>総合1年生前期「みんなの絆を深めよう～校外学習を通して～」</b></p> <p>校外学習は、飯ごう炊きを中心とした野外活動を行う。そこで、入学してすぐの1年生学年集団の「絆」を深めるため、どんな計画を立てればよいかを考える。これまでの自分の知識や経験、さらに他の仲間との情報交流を通して、活動を成功させる秘訣とは何かを探る。そして、自分たちの活動計画を実際の活動で検証し、他の活動で生かせる秘訣をまとめる。</p>                                                                                                                                        |
| <p><b>総合1年生後期「働くって何①～チャレンジ体験(職場体験)学習に向けて～」</b></p> <p>2年生で実施する職場体験学習に向け、自分の知っている職業は何か、自分に適した職業は何かを調べたり(「しごと調べ」)、実際に働いておられる方からお話を聞いたりすること(「先輩に聞こう」)を通して、働くとは何か、何のために働くのか、を探る。そして、それを解決するために必要な課題を設定し、職場体験学習に臨む。</p> <p><b>外部の教育資源の活用「先輩に聞こう」</b></p>                                                                                                           |
| <p><b>総合2年生前期「働くって何②～チャレンジ(職場)体験学習を通して～」</b></p> <p>職場体験学習に向け、体験に必要な具体的な準備や、設定した課題を解決するための活動(職場体験・ファイナンスパーク学習)を通して、働くとは何か、何のために働くのか、を具体的に探る。そして、調べたことを整理・分析して、課題に対する自らの考えをまとめ、ポスターで表現する。</p> <p><b>外部の教育資源の活用「チャレンジ(職場)体験学習」「ファイナンスパーク学習」</b></p>                                                                                                             |
| <p><b>総合2年生後期「現在、そして将来の自分～ふれあいトーク、高校訪問を通して～」</b></p> <p>職場体験学習を終え、将来の自分の在り方、生き方について考えることを通じて、進路選択に向けての具体的な準備や、進路実現のために超えるべき課題を設定する。設定した課題の解決に向け、コミュニケーション能力の向上や必要な情報を収集するための活動(ふれあいトーク、高校訪問)を企画・運営し、成果をポスターで表現する。</p> <p><b>外部の教育資源の活用「学生ボランティアによる「将来の夢」講演会」「ふれあいトーク」「高校訪問」</b></p>                                                                           |
| <p><b>総合2・3年生「現在、そして将来の自分～修学旅行から見えてくる私たちの課題①～」</b></p> <p>2年生での取組を踏まえ、将来の自分の在り方、生き方について考えるため、修学旅行先の長崎で取り組むべき課題を設定し、情報を調査・収集・分析した結果を他学年や地域の人々に発信する。また、主発問の一つに「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」を加え、自分たちの在り方だけでなく、自分たちが暮らす地域の課題に向き合い、長崎の人たちと交流する。</p> <p><b>外部の教育資源の活用「キャリア教育型修学旅行プログラム②」「ドメダム?修学旅行計画をイケイ!にしよう!」「自己探検隊」</b></p> <p><b>一般社団法人復興教育支援ネットワーク</b></p> |
| <p><b>総合2・3年生「現在、そして将来の自分～修学旅行から見えてくる私たちの課題②～」</b></p> <p>修学旅行で調査した結果をもとに、課題に対する答えを整理し、ポスターセッションで1・2年生や保護者、地域の方に向けて発信する。将来の自分の在り方、生き方、あるいは地域の在り方について考えたことを発信することで、「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」について一つの答えを出せるようにする。今後、自分たちの在り方だけでなく、自分たちが暮らす地域の課題に向き合い、将来を見通すことができるようにする。</p> <p><b>外部の教育資源の活用「民泊、ほんなちん体験(体験活動)」</b></p>                                   |

図2-2 「修学旅行を見通した単元計画例」

## (2) チャレンジ体験（職場体験）学習・ファイナンスパーク学習

次頁図2-3は、生徒がチャレンジ体験学習に行く前と後での、「働く」ことへのイメージの変化を示したものである。

前後で増加したものは、「楽しい・疲れるけど楽しい」であり、「人と関わる・人との関わりが楽しい・人と交流する・コミュニケーション」「やりがいがある」「みんなで協力・助け合う・人と人とが支え合う」「仕事仲間ができる・仲良くなる・出会い・友達ができる」といった「働く」ことに肯定的なイメージが生まれたことがわかる。一方、「ストレス」「自由の時間がなくなる・時間が長い」「面倒臭い」「イライラしやすくなる」といった否定的なイメージは

減少していた。ただし、「疲れる・しんどい」「大変」といった言葉は増加しており、「働く」ことの苦勞について、生徒は大いに感じたといえる。

また、チャレンジ体験学習の後に、フィナンサーク学習<sup>[3]</sup>を実施し、働いて得たお金を生活でどのように使うのか、家計を考える体験を行った。実は、これまで本校はこの学習には参加しておらず、初めての参加であった。また、他校はこの学習をチャレンジ体験学習の前に行うところを、京都市で初めて後に行った。その理由は、働くことの大変さを知ったうえで、それで得たお金で生活を切り盛りする体験をするのが、生徒の実感を引き出すのにふさわしい順番だと考えたからである。

生徒は、家計に必要な費目を順に計算しながら、目的を理解して学習を進めることができた。生活することの大変さと、その中で自分のやりたいものは何か、それを実現させながら働くこと、そのために超えねばならない課題は何かについて考え、次の単元へと進んでいった。

(3) ふれあいトーク

次の単元では、課題の範囲を自分から地域へと広げた。自分たちの暮らす地域の課題として、生徒は「道路や公園に落ちているゴミが多い」「治安が悪い」といったものをあげた。しかし、それを解決するための方策を考える意欲は乏しく、地域への帰属意識も薄かった。

そこで、「ふれあいトーク」を企画し、生徒から実行委員を募って計画・実行した。「ふれあいトーク」とは、地域の大人90名と生徒90名が体育館に向かい合って輪を作り、設定されたテーマについて1人1分ずつ交互に話し、一

| 私にとって『働く』とは何か？ |                                                                     | 事前 | 事後 |
|----------------|---------------------------------------------------------------------|----|----|
| 青              | お金が稼げる・ボーナスがもらえる・頑張った分給料がもらえる                                       | 31 | 23 |
| 青              | 楽しい・費れるけど楽しい                                                        | 18 | 35 |
| 青              | 生きていたため                                                             | 11 | 7  |
| 青              | 面白い・面白そう                                                            | 5  | 8  |
| 青              | 達成感・終わるとすっきりする                                                      | 5  | 1  |
| 青              | 人と関わる・人との関わりが楽しい人と交流する・コミュニケーション                                    | 4  | 19 |
| 青              | 仕事仲間ができる・仲良くなる・出会い・友だちができる                                          | 2  | 21 |
| 青              | 大切                                                                  | 2  | 4  |
| 青              | 自分の家族を養う・家族を守る                                                      | 2  | 3  |
| 青              | 誰かのためにすること・人のために働く                                                  | 2  | 1  |
| 青              | やがていがある                                                             | 1  | 11 |
| 青              | みんなで行か・助け合う・人と人が支え合う                                                | 1  | 2  |
| 青              | 責任・責任感がある                                                           | 1  | 3  |
| 青              | 一所懸命にやる                                                             | 1  | 1  |
| 青              | 笑顔になれる・スマイル                                                         | 1  | 1  |
| 青              | 頑張る                                                                 | 1  | 1  |
| 青              | 努力                                                                  | 1  | 1  |
| 青              | 積極的に仕事をする                                                           | 1  | 1  |
| 青              | 欲しいものがある                                                            | 1  | 1  |
| 青              | 欲しいものがある                                                            | 1  | 1  |
| 青              | 働くことで遊べる                                                            | 1  | 1  |
| 青              | 昇格                                                                  | 1  | 1  |
| 青              | お金を貯める                                                              | 1  | 1  |
| 青              | この世の中に必要なこと                                                         | 1  | 1  |
| 青              | 休日が楽しみになる                                                           | 1  | 1  |
| 青              | 相手を思い(思いやり)気持ちよく・相手の方を優先する                                          | 2  | 2  |
| 青              | かっこいい・いける                                                           | 2  | 2  |
| 青              | 言葉遣い・敬語で言う                                                          | 2  | 2  |
| 青              | 稼ぐ                                                                  | 2  | 1  |
| 青              | まかないがうまかった                                                          | 1  | 1  |
| 青              | うれしいことがある                                                           | 1  | 1  |
| 青              | ごほうび                                                                | 1  | 1  |
| 青              | 気を使う                                                                | 1  | 1  |
| 青              | 面白い                                                                 | 1  | 1  |
| 青              | 先輩の方が楽しかった                                                          | 1  | 1  |
| 青              | 好きなこと                                                               | 1  | 1  |
| 青              | 仕事のスピードが速い                                                          | 1  | 1  |
| 青              | いっばい経験が出来る                                                          | 1  | 1  |
| 青              | 学ぶ                                                                  | 1  | 1  |
| 青              | まわりとルール                                                             | 1  | 1  |
| 青              | おいしかった                                                              | 1  | 1  |
| 青              | 運動がない                                                               | 1  | 1  |
| 青              | ストレス                                                                | 10 | 2  |
| 否              | 面白い                                                                 | 9  | 6  |
| 否              | 自分時間がない・時間が長い                                                       | 5  | 8  |
| 否              | ハワハラ・上司が面倒臭そう・上下関係が面倒臭い・上司に怒られるイメージ・上司に気に入られなかったらすぐ何でもやらせられそうないイメージ | 4  | 3  |
| 否              | 眠くなる                                                                | 3  | 4  |
| 否              | くたがえ・やすくなる                                                          | 2  | 4  |
| 否              | 楽しくない                                                               | 2  | 4  |
| 否              | だるい                                                                 | 2  | 2  |
| 否              | 休みが無さそう                                                             | 2  | 2  |
| 否              | 辛い                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 人間関係がまっつそう                                                          | 1  | 1  |
| 否              | 飽きる                                                                 | 1  | 1  |
| 否              | 楽ではない                                                               | 1  | 1  |
| 否              | ひま                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | やりたくない                                                              | 1  | 1  |
| 否              | 不安                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | フック企業                                                               | 1  | 1  |
| 否              | クレーン対応                                                              | 1  | 1  |
| 否              | 常に夢想したい                                                             | 1  | 1  |
| 否              | クビ                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | くち                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 足が痛い                                                                | 1  | 3  |
| 否              | 苦しい・苦勞・楽じゃない                                                        | 1  | 3  |
| 否              | ホーツする                                                               | 1  | 1  |
| 否              | 夜ご飯が遅くなる                                                            | 1  | 1  |
| 否              | 怒られる                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 臭い                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | うるさい                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 疲れる・しんどい                                                            | 34 | 52 |
| 否              | 大変                                                                  | 18 | 27 |
| 否              | 忙しい                                                                 | 9  | 6  |
| 否              | 上下関係                                                                | 5  | 2  |
| 否              | 大人・大人の階級登る                                                          | 2  | 1  |
| 否              | 難しい                                                                 | 2  | 1  |
| 否              | 朝が早そう                                                               | 2  | 1  |
| 否              | 時間                                                                  | 2  | 1  |
| 否              | 緊張                                                                  | 1  | 2  |
| 否              | 電車・通勤活動                                                             | 1  | 1  |
| 否              | 修業                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 日常                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 先輩や上司の言うことを聞いて働いたり動いたりする                                            | 1  | 1  |
| 否              | ホワイト企業                                                              | 1  | 1  |
| 否              | スーツ                                                                 | 1  | 1  |
| 否              | 常識                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 学校と似てる                                                              | 1  | 1  |
| 否              | コーヒー                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 家族                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 家                                                                   | 1  | 1  |
| 否              | 汗が出る                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 動きまわる                                                               | 1  | 1  |
| 否              | ヒールが折れそう                                                            | 1  | 1  |
| 否              | 眠れない                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 我慢する                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 腹が欲しい                                                               | 1  | 1  |
| 否              | 話し合い                                                                | 1  | 2  |
| 否              | 腹し(腹される)                                                            | 1  | 1  |
| 否              | ごまかい                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 体と頭をとても使う                                                           | 1  | 1  |
| 否              | とんきち                                                                | 1  | 1  |
| 否              | ちよと老                                                                | 1  | 1  |
| 否              | あきらめない                                                              | 1  | 1  |
| 否              | 対応                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 企業                                                                  | 1  | 1  |
| 否              | 痛かった                                                                | 1  | 1  |
| 否              | 相手の人に常に感謝されていること                                                    | 1  | 1  |
| 否              | よくわからない                                                             | 1  | 1  |
| 否              | 計算する                                                                | 1  | 1  |

図 2-3 「私にとって『働く』とは何か」



図2-4 「ふれあいトーク」広報チラシ

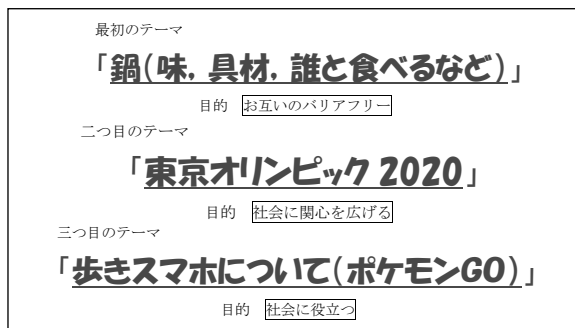


図2-5 「ふれあいトーク」テーマ

方は傾聴する。互いに話が終わったら、生徒が一つ席を移動して新たな組み合わせで話をするという取組である。将来の自分、将来の社会を考え、なりたい自分を実現するために、身近な大人と語り、自分の思いを伝えたり、大人の考えに触れたりすることで、コミュニケーション能力の向上を図るとともに、自分に必要なものは何かを考えるきっかけをつくる。また、大人とともに過ごす時間をもつことで、自分が地域の一員であり、地域を支える人材になっていく自覚をもつことを期待した。運営や人集めにあたり、京都市教育委員会生涯学習部、伏見東人づくり21世紀委員会、栗陵中学校 PTA 本部に多大な協力をいただいた。

図2-4は、その広報チラシである。また、図2-5は、実行委員会の生徒が、トークを盛り上げるために、検討を重ねて決めたテーマである。

テーマを決める条件として、実行委員のメンバーは、①身近な話題で、だれもが話することができるもの（お互いのバリアフリー）、②社会に大きく関心を広げられるもの、③地域をよくするための方策につながるもの（社会に役立つもの）の3つをあげ、条件にふさわしい案を考えた。また、テーマの案を考えた後、いくつかシミュレーションを行い、実際にトークが盛り上がるかどうかを試した。

その甲斐あって、本番は司会進行、インタビューも含め、すべて生徒の手により進められ、見事に成功を取めることができた。生徒の感想からは、「大人の人が、自分たちに話す内容を合わせてくれたり、聞きやすいように何度も相槌を打ってくれたりした」「思った以上に自分が話することができるのに驚いた」など、相手をして下さった大人の方々への感謝の気持ちや、目線を合わせて話を引き出して下さった態度に、素直に喜ぶ様子が見られた。



#### (4) 高校訪問、学生ボランティアによる「将来の夢」講演会

ふれあいトークで地域への関心や親近感をもつことを目指すと並行して、高校訪問を企画し、さらに外部の大人と交流する機会を設定した。目的は、進路情報の共有と意識の向上を図るとともに、平成29年度修学旅行（長崎）に向けて、計画作りから当日の班別行動までを体験することで、時間や集団行動のルールを守る態度を身に付ける、あるいは、学習内容を後日発表するための情報収集、情報活用能力を身に付けることである。京都市内の公立・私立高校計16校に協力を要請し、高校見学（事前学習での下調べも含む）を行った。そして、調べた内容をもとに「高校新聞」を作成し、他の仲間にプレゼンテーションを行った。なお、活動計画から高校への訪問の予約、集めた情報をもとに作成するプレゼンテーションまでを生活班で企画し、主体的に活動した。

また、高校訪問に先立ち、日頃から学習支援で関わってくれている学生ボランティアに、「将来の夢」をテーマに講演をしてもらった。彼は宇宙工学を究めることを志し、春からは東京の大学院への進学が決まっていた。また、アメリカンフットボール部に所属し、主将として約100名の部員を率いていた。なぜ彼が宇宙工学を志し、アメリカンフットボールに打ち込んだのか。日ごろ勉強を教えてくれていたお兄さんが、どんな思いをもって勉強していたのかを知り、ロールモデルの一つを得ることができた。

#### (5) 「キャリア教育型修学旅行プログラム③『ダメダメ？修学旅行計画をイケイケ！にしよう！【自己管理編】』」

高校訪問終了後、本格的に修学旅行委員会を立ち上げ、生徒代表による修学旅行の企画・運営に向けての取組が始まった。最初に取り組んだのは、修学旅行での「生活のきまり」づくりである。教材として、「キャリア教育型修学旅行プログラム③『ダメダメ？修学旅行計画をイケイケ！にしよう！【自己管理編】』」を使用した。

このプログラムは、一般社団法人「復興教育支援ネットワーク」の開発した教材である。生徒は、まず「こんな修学旅行はダメダメ！」を考え、最悪の修学旅行のイメージを5つあげる。これを「せめてフツー」にするにはどうしたらよいか、あるいは「すごくイケてる旅行案」へと発展させ、最後に「イケイケ修学旅行5箇条」をつくる。生徒自身でよりよい結果を生むための創意工夫を考えるとともに、選択と決定が自己管理の要であることに気づかせることができた。修学旅行のルール作りを通して、修学旅行への見通しと、必要な準備が何かを生徒自身で把握し、学年全体へと発信する準備を整えた。

また、自分たちの暮らす地域の課題を解決するため、長崎の人々の地域への思いはどのようなものかを調べるべく、事前学習を始めた。長崎の歴史・文化・地誌などを調べる他、2日目にお世話になる民泊先の方へのインタビューの準備として、「長崎の〇〇さんは、自分の地域をよくするために何を（何をしようとして）していましたか？」という発問を生徒へ行った。

生徒たちは、各班でこの課題を解決するために、どのような質問をすればよいか検討し、修学旅行のしおりへ記した。

#### (6) 民泊、ほんなもん体験（体験活動）

長崎県北西部にある「一般社団法人まつうら党交流公社」が運営する民泊・体験学習は、「本物の体験」を通じて人と人がどっぷりと関わり、心地よい人間関係を築く力を育むことを目的としている。生徒がお世話になった佐世保市鹿町小佐々地区は、半農半漁で生計を立てている地域であるが、町おこしの一つとして民泊を取り入れ、新たな産業の基盤として育てるべく取り組んでいる。生徒は「なぜ民泊・体験学習を行うのか?」「自分の地域をよくするために何をしているか（しようとしているか?）」と受け入れ先の家庭で質問することで、自分たちの将来や、自分たちの住む地域をよりよくしていくためのヒントを得る。地域を支え発展させていこうとする人々の心意気に触れることで、自ら課題を解決していくための力をもらうことができた。

#### (7) ポスターセッション

修学旅行で調査した結果をもとに、課題に対する答えを整理し、ポスターセッションで1・2年生や保護者、地域の方に向けて発信した。ポスターセッションは、本校では今年度から取組が始まった。目的意識・相手意識・場面意識をもってポスターを作成するとともに、将来の自分の在り方、生き方、あるいは地域の在り方について考えたことを発信することで、「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」について一つの答えを出せるようにした。さらに、今後、自分たちの在り方だけでなく、自分たちが暮らす地域の課題に向き合い、将来を見通すことができるように発表した。

また、1・2年生には投票用紙を配布し、最も良かった発表はどれか、その理由は何かを書いて投票してもらった。次頁の枠内は、投票した理由の一部である。

投票の理由から、ポスターセッションでは、発表者・観客の双方が質問を行ったり、具体例を図等で示したりすることで、観客にわかりやすい発表が行われていたことがわかる。

また、理由の中には、過疎化の問題や地域の産業の問題など、解決せねばならない地域の課題について関心を寄せているものもあった。一方、3年生は、観客の対象が1・2年生であったため、「先輩として恥ずかしい発表はできない」と、自分たちで意欲的に取り組もうとしていた。ただし、本校では初めての取組であったため、3年生自身も何がベストの発表なのかを探りながら取り組んでいた。その結果、話し方や観客への対応の仕方、取り組む姿勢など、多くの点で今後も改善を図る必要が見られた。

- 質問にていねいに分かりやすく答えてくれたので、民泊の良さが分かりました。それと、民泊以外のこともたくさん教えてくれたので、よかったです！繭玉とか料理が楽しそうだなと思いました。長崎にしかできない体験だな、と思いました。
- 過疎化の意味をしっかりと伝えてくれて、過疎化が進むことによって（若者が減っていくため）あせているので、みんなが優しくしてくれたんだとわかりました。話し方は少しだけ小さかった。でもすごく具体的だった。（図とかがあったから）少しは役に立つ内容でした。
- 長崎弁についてとてもよく分かった。長崎弁の意味を考えるクイズは難しかったけど、考えるのが面白かった。長崎に行って長崎の人としゃべってみたいと思った。
- 平和協定や非原爆を決められていなかったとき、平和を持続するのはどれほど難しいのか分かった。平和＝戦後ではなく、平和＝続けていくものと分かった。
- みんなに聞こえやすい声で話していたから。班全員で協力してやっていたのが伝わってきたし、掛け声みたいなのを工夫していたから。一つの内容に対して具体的でわかりやすかったから。

#### 4. 成果と課題

本実践を通して、自己指導能力が高められたかを評価するにあたり、p.72 で述べたように、筆者が担当する社会科の授業で学期末ごとに行う振り返りアンケートで得られたデータを基に分析・考察する。このアンケートは、家庭学習の視点から生徒の学習意欲を調査・分析する目的で行っている。データは、本実践に取り組んだ平成 27 年度入学生（現在の中学 3 年生）のもの、比較対象として平成 25 年度入学生（現在の高校 2 年生）のもの、そして平成 28 年度版指定都市教育研究所連盟の調査結果（平成 28 年度の中学 2 年生を対象）<sup>[4]</sup> のものを示す。なお、平成 25 年度入学生は、本実践に示したチャレンジ体験学習と高校訪問以外の活動には取り組んでおらず、参考データとして示した。

##### (1) 調査結果からわかること

次頁図 3-1 は、「あなたは、社会科の授業を通して、わかったことやできたことについて、先生や友だちから『すごいね』『がんばっているね』とほめられたことがありますか」についての質問の結果である。

「よくある」「ときどきある」という肯定的な回答について、全国平均が 49.8%なのに対し、平成 27 年度入学生は、1 年生時（平成 27 年 12 月）には 46.0%とわずかに下回っていたものが、3 年生時（平成 29 年 7 月）には 63.8%に上昇した。平成 25 年度入学生（2 年生時 32.4%）と比較しても、肯定的な割合が大きいことがわかる。

また、次頁図 3-2 は、「あなたはみんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業をよいと思いますか」、p.83 図 3-3 は「あなたは、社会科の授業中に、『わかった』『でき

た」と思うことはありますか」についての質問の結果である。

「みんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業」に対し、「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」の肯定的な回答は、全国平均が84.2%なのに対し、平成27年度入学生の3年生時（平成29年7月）で95.0%、平成25年度入学生の2年生時（平成26年11月）で95.4%と、共に全国平均を上回っている。

また、「授業中に『わかった』『できた』と思うこと」については、全国平均が86.5%なのに対し、平成27年度入学生の3年生時（平成29年7月）で83.8%、平成25年度入学生の2年生時（平成26年11月）で78.0%と、全国平均をわずかに下回るものの、共に約8割の生徒が

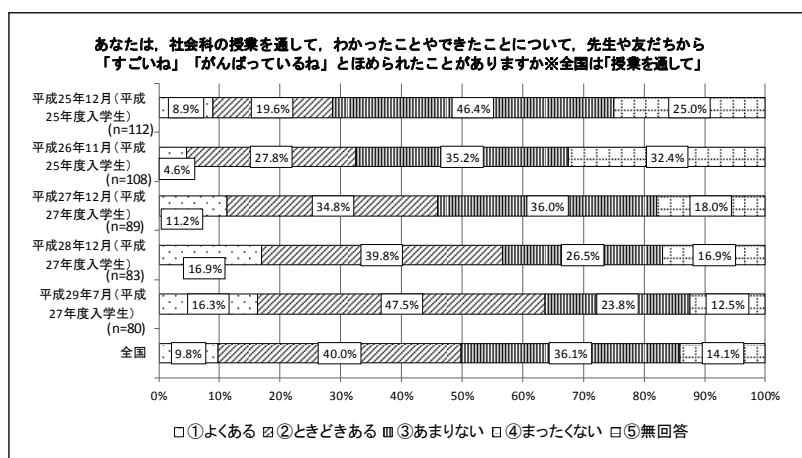


図3-1 「あなたは、社会科の授業を通して、わかったことやできたことについて、先生や友だちから『すごいね』『がんばっているね』とほめられたことがありますか」

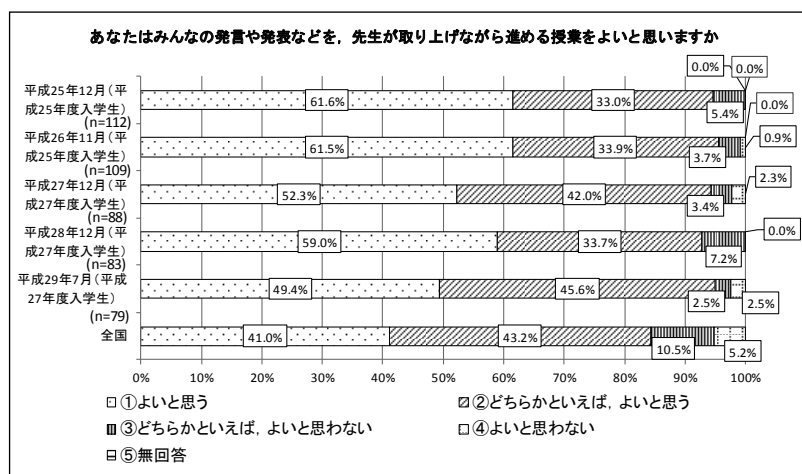


図3-2 「あなたはみんなの発言や発表などを、先生が取り上げながら進める授業をよいと思いますか」

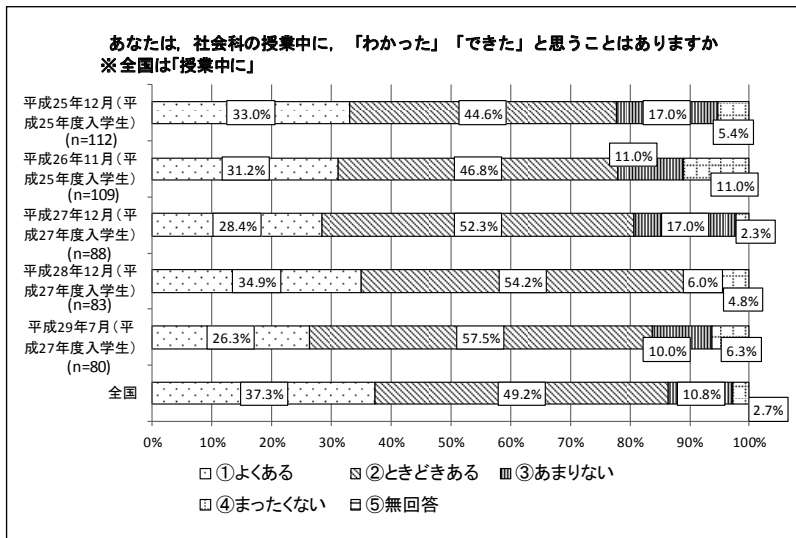


図 3-3 「あなたは、社会科の授業中に『わかった』『できた』と思うことはありますか」

授業で肯定的な印象を持っていることがわかる。

これらのことから、平成 27 年度入学生は、平成 25 年度入学生と同様、授業や学習に対して肯定的な印象を持っているとともに、授業中に「ほめられたり、認められたり」している認識が高まっており、共感的な人間関係の形成が進んでいることが分かった。

次に、次頁図 3-4 は、「あなたは、学校のある日、だいたいどのくらい家で勉強していますか」についての質問の結果である。

「ほとんどしない」という回答は、全国平均が 18.2% なのに対し、平成 27 年度入学生の 1 年生時（平成 27 年 12 月）で 31.5%、3 年生時（平成 29 年 7 月）で 38.5% と増加しており、平成 25 年度入学生の 1 年生時（平成 25 年 12 月）で 40.2%、2 年生時（平成 26 年 11 月）で 37.3% と比べても、共に全国平均を上回るとともに、平成 27 年度入学生に至っては年を経るごとに大幅に増加した。

一方、次頁図 3-5 は、「あなたは、家庭学習のことで、家の人からアドバイスをしてもらいますか」、次頁図 3-6 は、「あなたは、週にどのくらい、学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか」についての質問の結果である。

「家の人からのアドバイス」について、「まったくしてもらわない」「あまりしてもらわない」という否定的な回答は、全国平均が 51.0% なのに対し、平成 27 年度入学生の 1 年生時（平成 27 年 12 月）で 59.6%、3 年生時（平成 29 年 7 月）で 65.4% と増加しており、平成 25 年度入学生の 1 年生時（平成 25 年 12 月）で 54.5%、2 年生時（平成 26 年 11 月）で 57.3% と比べても、共に全国平均を上回るとともに、平成 27 年度入学生に至っては年を経るごとに大幅に増加した。

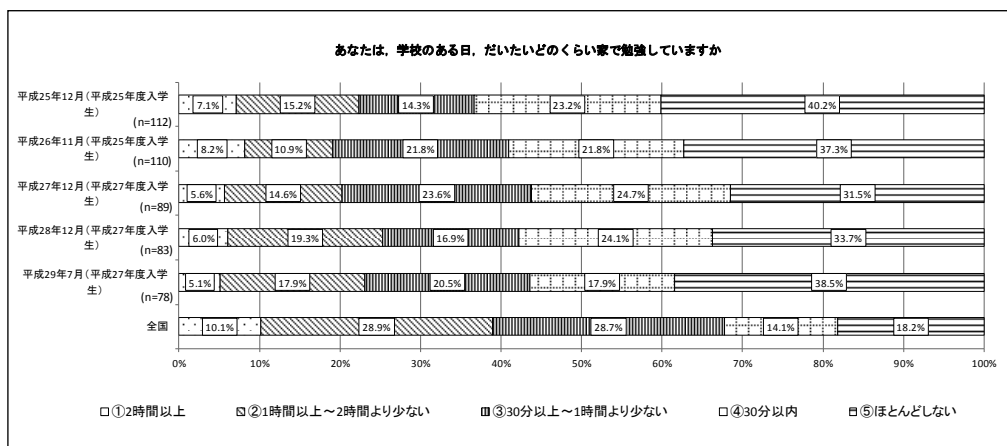


図3-4 「あなたは、学校のある日、だいたいどのくらい家で勉強していますか」

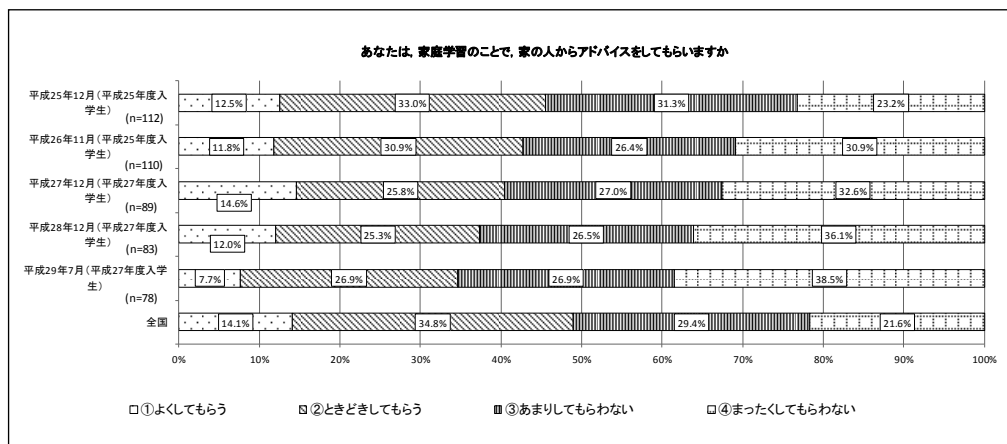


図3-5 「あなたは、家庭学習のことで、家の人からアドバイスをしてもらいますか」

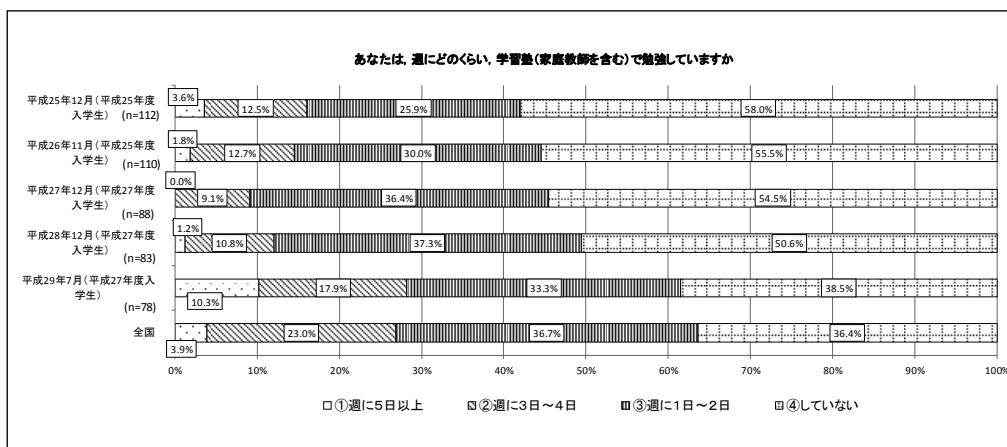


図3-6 「あなたは、週にどのくらい、学習塾（家庭教師を含む）で勉強していますか」

表 『家庭学習時間』と『学習塾（家庭教師）で勉強』についてのクロス集計結果』（平成29年7月）

|           | ① 2時間以上 | ② 1時間以上～<br>2時間より少ない | ③ 30分以上～<br>1時間より少ない | ④ 30分以内 | ⑤ ほとんどしない |
|-----------|---------|----------------------|----------------------|---------|-----------|
| ①週に5日以上   | 12.5    | 37.5                 | 37.5                 | 12.5    | 0.0       |
| ②週に3～4日以上 | 20.0    | 26.7                 | 20.0                 | 26.7    | 6.7       |
| ③週に1～2日以上 | 0.0     | 19.2                 | 15.4                 | 11.5    | 53.8      |
| ④していない    | 0.0     | 6.5                  | 22.6                 | 19.4    | 51.6      |

それに対し、「学習塾（家庭教師）で勉強」について、「していない」という回答が、全国平均で36.4%なのに対し、平成27年度入学生の1年生時（平成27年12月）で54.5%であったのが、3年生時（平成29年7月）で38.5%と減少しており、全国平均並みに学習塾や家庭教師を利用する生徒が増えたことがわかった。平成25年度入学生の場合、1年生時（平成25年12月）で58.0%、2年生時（平成26年11月）で55.5%と比べると、例年になく通塾率が上昇したことがわかる。

なお、上の表は、平成29年7月の「家庭学習時間」と「学習塾（家庭教師）で勉強」について、結果をクロス集計したものである。相関係数は0.478<sup>[5]</sup>であり、中程度の相関がある。

学習塾（家庭教師）で「週に5日以上」「3～4日以上」と回答した生徒のうち、家庭で学習を「ほとんどしない」と答えた生徒が0.0%、6.7%であったのに対し、「週に1～2日以上」と回答した生徒では、家庭で学習を「ほとんどしない」と答えた生徒が53.8%にのぼった。

これらのことからわかることは、これまで家庭学習に取り組めていなかった生徒が、中学3年生の進路選択を前に、保護者に相談して学習塾や家庭教師を利用するようになったが、結果的に家庭では学習に取り組めていない実態である。本来ならば、入試に向けて自分で自立して勉強しなければならないと考え、家庭学習に取り組むべきところであるが、「塾で教えてもらえば何とかできる」と考え、「自分で」「家庭で」学習するという自己決定に至っていないことがわかる。

しかし、前頁図3-5で、家庭学習について保護者からのアドバイスが「ほとんどない」状況が増える中で、通塾率が増加している背景には、保護者も生徒も、学習や進路実現に向けて何らかの手立てを講じなくてはいけないという自己決定を行っている様子と、保護者も生徒の進路実現に決して無関心なのではなく、アドバイスをしたくてもできない背景があると考えられる。実際、進路相談の懇談会で保護者からは、「塾の月謝を捻出するためにパートのシフトを増やした結果、帰宅時間が遅くなった」といった話も聞かれる。また、「私、中学生の時ヤンチャしてたから、勉強がわからへんし、教えてやりたくても教えてやれへんのがくやしくて……」と、生徒の前で涙ながらに話す保護者もあり、生徒の自己指導能力や家庭学習意欲を伸ばすため、改めて学校での取組を検討していく必要があると感じた。

## (2) 成果と課題

「自己指導能力」の育成を図れば、生徒の学習意欲を高めることができるのではないかという仮説に対し、本実践を通して、自己指導能力の「共感的な人間関係（協働）」を育む点で一定の成果を示すことができたと考え。特に、課題を解決する取組に臨む中で、仲間と協力しながら必要に応じて適切な選択や判断を行ったり、解決に向けて粘り強く取り組んだりすることで、互いの成果を振り返り、評価することへの価値を感じるようになってきたと推測する。

一方で、家庭学習時間については、改善の傾向が見られなかった。この点について、自分の学力を高め、自己実現を図るためには、家庭学習を含めた自らの課題を解決するためのよりよい自己決定ができる姿勢・態度を育てる必要性があると、改めて確認することができた。例えば、「自分の学力を高めるには、ただ学習塾に行けばよいのではなく、毎日コツコツと家庭での学習を積み重ねるといった習慣に価値を感じ、家庭での学習時間を確保しようと行動する」といったことである。ただし、前頁で述べたように、平成27年度入学生の通塾率の増加は、これまで本校には見られなかった傾向であり、生徒・保護者がともに学習や進路実現に向けた自己決定への関心の高まりを示している。

そこで、改善策の一つとして、教科等の授業と連携して、取り組んだことへの振り返り、さらには見通しの活動に取り組むことが有効だと考える。また、取り組んだ成果を振り返る評価の観点の中に、継続して積み重ねることの大切さに触れる項目を盛り込み、生徒同士が互いに協働して評価活動を行うなど、他者の評価を意識できる場面をつくることも有効だと考える。

その点、p.80で述べたポスターセッションは、これまで探究してきたことの成果を発表する場であり、1・2年生の投票結果はそれに対する評価となる。評価を基に振り返り、次なるよりよい発表に向けて取り組むべきことは何かを見通すことは、次の課題を設定する自己決定につながっていく。この場面を、日常においても設定できれば、よりよい自己決定ができる姿勢・態度の育成につながると考える。

最後に、今回の実践では、自己指導能力の「自己有用感を与えること（人の役に立つ）」の点で、取組を評価することができなかった。次の調査までに、学習意欲と自己有用感を図る尺度としての調査項目を準備したい。

## 5. おわりに

3年生後期の総合的な学習の時間では、本実践の総仕上げとして、「将来の自分をデザインするために、なにができるだろうか?」「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」について、一つの答えを出す取組を進めている。15歳で卒業した後の自分の決意、自分が暮らす地域にどう関わっていくのかについて構想し、地域を支える人材としての自覚を育むことができるようにしたい。



そこで先日、京都市選挙管理委員会の協力のもと「模擬選挙」を実施した。選挙制度の解説の他、本物の設備を使って実際に模擬投票を行う。その際、立候補者役に選挙公約を発表してもらい、班で公約に対する質問を考えて問う場面を設けた。質問時間は非常に盛況で、生徒は意欲的に取り組むことができた。次の枠内は、その時の主な質問である。

- 女性の政治参画の推進との公約に、具体的にどんなことを推進するのか。
- 高齢者が生き生きと働き、生活できる京都市を実現するとの公約に、どのような工夫をするのか。
- 公約のうち、何を優先するのか。

公約に対し、課題を解決するなら具体的に何をすればよいのか、立候補者に問いかけながらも、自分たちならどうするかを選択・判断できるようになれば、地域に根差した人材の育成にもつながると考える。自立するだけでなく、地域を支える人材になるために何を優先するのか、最善の判断ができる力を育てていけるよう、今後も取り組んでいきたい。

## 6. 注

- [1] 指定都市教育研究所連盟「第18次共同研究 調査結果集計表」2017.12.26  
<http://www.sec.sapporo-c.ed.jp/product/pdf/sitei/shiteitoshil8kekka.pdf>
- [2] 中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」（平成23年1月31日）pp.25-26 2017.12.26  
[http://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878\\_1\\_1.pdf](http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf)
- [3] ファイナンスパーク学習は、京都市教育委員会と公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本によって中学生を対象に開発・実施されているプログラムである。京都まなびの街生き方探究館では、生徒たちが与えられた仮想の家族を養うため、家計の収支をやりくりし、収入に見合った一か月の生活プランを設計する。  
 京都市教育委員会「ファイナンスパーク学習・京都まなびの街生き方探究館」2018.2.16  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000043134.html>
- [4] 前掲 [1]。なお、図3-1～6の値は少数第2位以下を四捨五入しており、それらの加算値はあえて100%になるよう調整変更を行っていない。また、n値は調査時の出席者数によって異なっている。
- [5] 相関係数はピアソンの積率相関係数にて算出した。  
 大塚雄作「改訂版 社会調査の基礎」（日本放送出版協会）p.125 2001.3

## 7. 参考文献

- ・水野博之「学校経営実践の立場から～一人ひとりが大切にされる学校づくり～」日本教育経営学会第56回大会公開シンポジウム発表資料「共生社会の実現と教育経営の課題～多様性（ダイバーシティ）に教育はどうこたえるか～」2016.6.11
- ・長田徹、清川卓二、翁長有希「学校と企業と地域をつなぐ新時代のキャリア教育」（東京書籍）2017.5.5

・ 文部科学省「学習指導要領解説総則編」2017.7 [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afidfile/2017/07/04/1387018\\_1\\_2.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afidfile/2017/07/04/1387018_1_2.pdf)

補足資料「3年間の総合的な学習の時間と特別活動を軸とした教科横断的な教育課程（試案）」

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |                                       |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| <p><b>総合1年生前期「みんなの絆を深めよう～校外学習を通して～」</b></p> <p>校外学習は、飯ごう炊さんを中心とした野外活動を行う。そこで、入学してすぐの1年生学年集団の「絆」を深めるため、どんな計画を立てればよいかを考える。これまでの自分の知識や経験、さらに他の仲間との情報交流を通して、活動を成功させる秘訣とは何かを探る。そして、自分たちの活動計画を実際の活動で検証し、他の活動で生かせる秘訣をまとめる。</p> <p><b>単元目標:</b>「絆」とは何かを考え、校外学習に臨む見通し(課題)を設定し、活動に必要な準備を主体的・協働的に選択・判断しながら取り組むことができる。</p> <p>〔課題の設定〕「校外学習を成功させる秘訣は何か、絆とは何か」について考える。</p> <p>〔情報の収集〕「活動計画づくり」を通して、各役割の意義・意味について調べる。</p> <p>〔整理・分析〕調べた情報をもとに、校外活動に向けての目標を整理、交流する。</p> <p>〔まとめ・表現〕活動のふりかえりを行い、次の活動への新たな課題を設定する。</p>                                                                         | <p><b>特別活動(学校行事)文化祭(合唱コンクール、モザイク壁画づくり)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>合唱コンクール…指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に、それぞれの役割を果たして、よりよい合唱をめざした。</li> <li>モザイク壁画づくり→文化委員会を中心に、モザイク画の原案を考えるとともに、制作計画や実行に取り組んだ。</li> </ul> <p><b>教科等との関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動…体験を通して、話し合いの進め方やよりよい合意形成と意思決定の仕方、チームワークの重要性や役割分担の意義等について学習する。</li> <li>道徳…「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」について学習する。</li> <li>技術家庭…飯ごう炊さん(調理)に必要な知識や技能について学習する。</li> <li>保健体育…集団行動に必要な知識や技能について学習する。</li> <li>美術…モザイク画の原案を考えたり、モザイク画の作り方について学習したりする。音楽…よりよい合唱を作り上げるために必要な知識や技能について学習する。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                   | <p>特別活動・係活動・文化祭・合唱コンクール・モザイク壁画づくり</p> |
| <p><b>総合1年生後期「働くって何①～チャレンジ体験(職場体験)学習に向けて～」</b></p> <p>2年生で実施する職場体験学習に向け、自分の知っている職業は何か、自分に適した職業は何かを調べたり(「しごと調べ」)、実際に働いておられる方からお話を聞いたりすること(「先輩に聞く」)を通して、働くとは何か、何のために働くのか、を探る。そして、それを解決するために必要な課題を設定し、職場体験学習に臨む。</p> <p><b>単元目標:</b>「働く」ことへの理解を深め、職場体験に臨む見通し(課題)を設定し、体験に必要な準備を主体的・協働的に選択・判断しながら取り組むことができる。</p> <p>〔課題の設定〕私にとって働くとは何か、将来何を大切に働くのかについて考える。</p> <p>〔情報の収集〕「しごと調べ」を通して、職業の特徴や意味、意義について調べる。</p> <p>〔整理・分析〕調べた情報をもとに、働くことへの自分の考えを整理し、交流する。</p> <p>〔まとめ・表現〕現段階の働くとは何かをまとめ、職場体験に臨む課題を設定する。</p>                                                                          | <p><b>外部の教育資源の活用「先輩に聞く」</b></p> <p>本校卒業生で中学校保健体育の教師をしておられる先輩を講師として招き、「なぜ学校の先生になろうと考えたのか」「教師の仕事はどんなものか」「将来の夢」など、日ごろの経験を踏まえてお話ししていただく。生徒は事前に質問を準備し、「働くこと」や「仕事」についてなど、講師との対話を通して疑問を解決する。<br/>※代表委員と連携して、講演会を開いた。</p> <p><b>生徒が組織する実行委員会による取組の運営(3年間を通して)</b></p> <p>代表委員会による学年集会の運営をはじめ、講演会や学年全体で働く取組の企画・運営について、生徒による実行委員会を組織し、生徒主体の活動ができる環境を整える。目的は、取組の成功に向けてどのように課題を解決すればよいか、その過程を体験するとともに、取組の核となるリーダーを実行委員会で育てることにある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |                                       |
| <p><b>総合2年生前期「働くって何②～チャレンジ(職場)体験学習を通して～」</b></p> <p>職場体験学習に向け、体験に必要な具体的な準備や、設定した課題を解決するための活動(職場体験・フィナンシャルパーク学習)を通して、働くとは何か、何のために働くのか、を具体的に探る。そして、調べたことを整理・分析して、課題に対する自らの考えをまとめ、ポスターで表現する。</p> <p><b>単元目標:</b>「働く」ことへの理解を深め、職場体験・フィナンシャルパーク学習を通して、設定した課題を主体的・協働的に選択・判断しながら解決することができる。</p> <p>〔課題の設定〕設定した課題を解決するため、具体的な調査方法について考える。</p> <p>〔情報の収集〕職場体験、フィナンシャルパーク学習を通して、必要な情報を調べる。</p> <p>〔整理・分析〕調べた情報をもとに、働くことへの自分の考えを整理し、交流する。</p> <p>〔まとめ・表現〕「働くとは何か」についてまとめ、自分の考えをポスターで表現する。</p>                                                                                           | <p><b>外部の教育資源の活用「チャレンジ(職場)体験学習」</b></p> <p>職場体験学習では、職種希望調査を行い、可能な限り第1希望の職種を体験できるように配慮した。希望の職種で取り組むことで、生徒は高い意欲と関心をもって学習に取り組むことができた。また、<b>体験日数を3日から4日に増やす</b>ことで、作業に慣れてきたところで改めて事業所の方の仕事への思いや取り組む姿勢に目を配ることができるとともに、事前に設定した課題について事業所の方にインタビューしたり、解決に必要な情報を収集したりすることができた。</p> <p><b>外部の教育資源の活用「フィナンシャルパーク学習」</b></p> <p>フィナンシャルパーク学習は、「京都学びの衛生力探究館」で中学生を対象に行われている。理想の家族の1か月の家計のシミュレーション、例えば、税金・保険をはじめ食費や光熱費など生活に必要な試算、様々な商品やサービスの購入・契約などを行う。これらの体験を通して、自らの生き方を探究し、働くことの意味や社会とのつながりを理解するとともに、社会にあふれる情報を適切に活用する力や自らの生き方につながる生活設計能力などを育成する。</p> <p>なお、多くの学校がチャレンジ(職場)体験学習の前にフィナンシャルパーク学習を実施する中で、今回、<b>京都市で初めてチャレンジ(職場)体験学習の「後」に実施した</b>理由は、職場体験を体験した生徒が「働くことの意味」について考えたり、家計の取入を「労働の対価」として考えたりすることで、家計のシミュレーションをより現実的なものとして体感できると予想したからである。その結果、生徒は事業所で経験したこと、働くことの大きさを踏まえて家計のシミュレーションに取り組み、家族を養いながらお金を使うことの重みを感じることができた。</p> |                                       |
| <p><b>教科等との関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別活動…現在及び将来の自己の生活の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点をもつ。そのために、集団中において自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方生き方を考え設計する力とは何かについて学習する。</li> <li>道徳…「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」について学習する。</li> <li>国語…事業所に職場体験を依頼する電話原稿、体験のお礼状の書き方について学習する。</li> <li>社会…「働くこと」を多面的・多角的に考察・判断し、自分の考えを表現することについて学習する。</li> <li>数学…フィナンシャルパーク学習に必要な数的処理について学習する。</li> </ul> <p>【文化祭に向けて(1・2年生共通)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術…モザイク画の原案を考えたり、モザイク画の作り方について学習したりする。</li> <li>音楽…よりよい合唱を作り上げるために必要な知識や技能について学習する。</li> </ul> | <p>活動・常活動・生徒活動・実行委員会</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                       |

**特別活動(学校行事)文化祭(合唱コンクール、モザイク壁画づくり)**  
 ・合唱コンクール→指揮者、伴奏者、ハートリーダーを中心に、それぞれの役割を果たして、よりよい合唱をめじた。  
 ・モザイク壁画づくり→文化委員会を中心に、1・2年生が協働してモザイク画の制作計画や実行に取り組んだ。

**生徒が組織する実行委員会による取組の運営(3年を通して)**  
 代表委員会による学年集会の運営をはじめ、講演会や学年全体で動く取組の企画・運営について、生徒による実行委員会を組織し、生徒主体の活動ができる環境を整える。目的は、取組の成功に向けてどのように課題を解決すればよいか、その過程を体験するとともに、取組の核となるリーダーを実行委員会で育てることにある。

**総合2年生後期「現在、そして将来の自分～ふれあいトーク、高校訪問を通して～」**  
 職場体験学習を終え、将来の自分の在り方、生き方について考えることを通して、進路選択に向けての具体的な準備や、進路実現のために超えるべき課題を設定する。設定した課題の解決に向け、コミュニケーション能力の向上や必要な情報を収集するための活動(ふれあいトーク、高校訪問)を企画・運営し、成果をポスターで表現する。

**単元目標:** 設定した課題を解決する過程について見通しをもち、生活班や実行委員会を中心に、課題を主体的・協働的に選択・判断して解決することができる。

**〔課題の設定〕** 将来の夢について考え、実現するために必要な課題を設定する。

**〔情報の収集〕** ふれあいトーク、高校訪問を企画し、必要な視点や情報を収集する。

**〔整理・分析〕** 調べた情報を、課題解決に必要な視点を踏まえて整理・分析する。

**〔まとめ・表現〕** 「伝えたいこと」を意識して情報をまとめ、ポスターで表現、交流する。

**外部の教育資源の活用「学生ボランティアによる『将来の夢』講演会」**  
 日ごろ学習支援などでお世話になっている大学生のボランティアの方に、「**将来の夢**」を語ってもらい、自分の身近にいる大人が、将来に向けてどんなことを考え、日々活動しているのを知り、一つの**ロールモデル**として今後の進路選択の参考にすることができた。  
 ※講演をしてくれた Y さんは、K 大学工学部で宇宙工学を専攻し、来春からは T 大学大学院で研究を続ける。アメリカンフットボール部の主将も務め、自分がなぜ K 大学を目指し、アメリカンフットボールにうちこんだ理由、さらには、ロケット開発の研究を目指した理由について語ってくれた。そして、**実現のために必要なことは何か、自分が取り組んだ具体的な方法**についても丁寧に説明してくれた。

**外部の教育資源の活用「高校訪問」**  
 京都市内の公立・私立高校計 16 校に協力を要請し、高校見学(事前学習での下調べも含む)を行った。そして、調べた内容をもとに「**高校新聞**」を作成し、他の仲間とプレゼンテーションする。なお、活動計画から高校への訪問のアポイントメント、集めた情報をもとに作成するプレゼンテーションまでを生活班で企画し、主体的に活動する。  
 目的は、**進路情報の共有と意識の向上**を図るとともに、**平成 29 年度修学旅行(長崎)に向けて、計画作りから当日の班別行動までを体験**することで、**見通し**をもち、**時間や集団行動のルールを守る態度**を身に付ける。あるいは、**取り組んだことをふりかえり**、学習内容を後日復習するための**情報収集、情報活用能力**を身に付けることである。

**外部の教育資源の活用「ふれあいトーク」**  
 地域の大人 90 名と生徒 90 名が体育館に向かい合って輪を作り、設定されたテーマについて 1 人 1 分ずつ交互に話し、一方は傾聴する。互いに話が終わったら、生徒が一つ席を移動して新たな組合せで話をし、将来の自分、将来の社会を考え、なりたい自分を実現するために、**身近な大人と語り、自分の思いを伝えたり、大人の考えに触れたりすること**で、**コミュニケーション能力の向上**を図るとともに、**自分に必要なものは何か考えるきっかけ**をつくる。また、大人とともに過ごす時間をもつことで、**自分が地域の一員であり、地域を支える人材になっていく自覚**をもつ。  
 ※運営(人集め)にあたり、市教生生涯学習部、伏見東人づくり 21 世紀委員会、栗蔭中学校 PTA 本部に多大な協力をいただいた。

**総合2・3年生「現在、そして将来の自分～修学旅行から見えてくる私たちの課題①～」**  
 2 年生での取組を踏まえ、将来の自分の在り方、生き方について考えるため、修学旅行先の長崎で取り組むべき課題を設定し、情報を調査・収集し分析した結果を他学年や地域の人々に発信する。また、主発問の一つに「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」を加え、自分たちの在り方だけでなく、自分たちが暮らす地域の課題に向き合い、長崎の人たちと交流する。

**単元目標:** 課題設定から解決までを実行委員会や活動班を中心に計画し、課題を主体的・協働的に選択・判断して解決するとともに、新たな課題を見出すことができる。

**〔課題の設定〕** 将来の自分の在り方等を考えるために、長崎での必要な課題を設定する。

**〔情報の収集〕** 長崎の歴史、文化、平和等、調査対象を絞り込むに必要な情報を調べる。

**〔整理・分析〕** 調べた情報をもとに、調査対象を決定し、対象への疑問を整理し交流する。

**〔まとめ・表現〕** 「修学旅行のしお」に課題をまとめ、調査するための聞き方などを決定する。

**修学旅行実行委員会→文化祭実行委員会による取組の運営**  
 修学旅行実行委員会を組織し、修学旅行の事前学習の運営、修学旅行でのレクリエーションの企画、生活のルール決定など、旅行の中核になる活動を生徒主体で取り組んだ。年度をまたいで運営するため、新たなクラスから必ず代表を出すように配慮するとともに、スケジュールを見通して、「いつまでにどの決定を各クラスの意見を踏まえて行わなければならないか」を相談し、スケジュール管理しながら取組を進めていた。  
 教師は活動を支援する形をとり、教師サイドで決定した内容も逐一生徒に連絡することで、情報の共有を図った。これにより、生徒が責任感をもって選択・判断を行うようになり、修学旅行本番での活動で主体性をもって活動することができた。  
 ※修学旅行の成果は、文化祭のポスターセッションで発表する。ポスターセッションの前にはプロローグ的な取組としてパフォーマンスを行い、劇やダンス、映像によって、修学旅行での経験と、それをもとに得た課題意識を紹介し、ポスターセッションへとつなげていく。

**外部の教育資源の活用「キャリア教育型修学旅行プログラム②『ダメダメ?修学旅行計画をイケイ!にしよう!』(自己管理編)」**  
 一般社団法人復興教育支援ネットワークの開発した教材を使用して、生徒(修学旅行実行委員会)が修学旅行を主体的に企画する取組を行った。  
 生徒は、まず「こんな修学旅行はダメダメ!」を考え、最悪の修学旅行のイメージを 5 つあげる。これを「**せめてもフツ**」にするにはどうしたらよいか、あるいは「**すぐイケてる旅行案**」へと発展させ、最後に「**イケイ**修学旅行 5 箇条」をつくる。**生徒自身でより良い結果を生むための創意工夫**を考えると、**選択と決定が自己管理の要**であることに気づかせることができた。

特別活動・係争活動・社会活動・卒業前事業活動

**教科等との関連**

- ・特別活動…現在及び将来の自己の生活、あるいは地域の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点をもつ。そのために、集団の中において自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方生き方、さらには地域の在り方を考え設計する力とは何かについて学習する。
- ・道徳…「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」について学習する。
- ・国語…ポスターセッションに向け、課題解決のプロセス、表現方法について学習する。
- ・社会…課題を設定し、解決に必要な情報を収集して多面的・多角的に考察・判断し、自分の考えを表現することについて学習する。
- ・理科…課題を設定し、科学的に考察し分析する過程について学習する。

【文化祭に向けて】

- ・英語…修学旅行を発信するパフォーマンス（ダンス）で用いる英語曲を学習する。 ・音楽…よりよい合唱を作り上げるために必要な知識や技能について学習する。
- ・技術家庭…修学旅行を発信するパフォーマンスで用いる画像編集技術について学習する。 ・保健体育…修学旅行を発信するパフォーマンス（ダンス）で用いる技術について学習する。

**総合2・3年生「現在、そして将来の自分～修学旅行から見えてくる私たちの課題②～」**

修学旅行で調査した結果をもとに、課題に対する答えを整理し、ポスターセッションで1・2年生や保護者、地域の方に向けて発信する。将来の自分の在り方、生き方、あるいは地域の在り方について考えたことを発信することで、「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」について一つの答えを出せるようになる。今後、自分たちの在り方だけでなく、自分たちが暮らす地域の課題に向き合い、将来を見通すことができるようになる。

単元目標：課題設定から解決までを実行委員会や活動班を中心に計画し、課題を主体的・協働的に選択・判断して解決するとともに、新たな課題を見出すことができる。

〔課題の設定〕 調査した結果と結果の発信方法を踏まえ、発信すべき課題を焦点化する。

〔情報の収集〕 修学旅行で得た情報に加え、課題を解決するため必要な情報を収集する。

〔整理・分析〕 調べたことを基に、自分たちが伝えたいことを、根拠を示して明らかにする。

〔まとめ・表現〕 相手意識・場意識、目的意識をもって考えをまとめ、ポスターで表現する。

**特別活動〔学校行事〕修学旅行〔長崎市、佐世保市 平成29年5月22日～24日〕**

- ・合唱コンクール→指揮者、伴奏者、パートリーダーを中心に、それぞれの役割を果たして、よりよい合唱をめざした。
- ・モザイク壁画つくり→文化委員会を中心に、モザイク画の原案を考えるとともに、制作計画や実行に取り組んだ。

1日目：長崎市班別研修、平和学習、学年レクリエーション  
2日目：クラス対抗ペーロン競争、ハウステンボス研修、鹿野小佐々地区民泊  
3日目：民泊、農漁村体験学習（船釣り、港釣り、アスパラ収穫、そば打ち、チャンポンづくり、わら草履づくり、えむかえ蕎麦づくり）

**外部の教育資源の活用「民泊、ほんなん体験（体験活動）」**

長崎県北西部にある「一般社団法人まつら交流公社」が運営する民泊・体験学習は、「本物の体験」を通じて人がどっぷりと関わり、**心地よい人間関係を築く力**を育むことを目的としている。生徒がお世話になった佐世保市鹿野小佐々地区は、半農半漁で生計を立てる地域であるが、町おこしの一つとして民泊を取り入れ、新たな産業の基盤として育てるべく取り組んでいる。生徒は「**なぜ民泊・体験学習を行うのか?と受け入れ先の家庭で質問**することで、自分たちの将来や、自分たちの住む地域をよりよくしていくためのヒントを得る。地域を支え発展させていこうとする人々の心意気に触れることで、自ら課題を解決していくための力をもらうことができた。

**総合3年生「15歳の決意～卒業後の自分、将来の自分・地域をデザインする～」**

「将来の自分をデザインするために、なにができるだろうか?」「私たちの住む町をよりよくしていくために、なにができるだろうか?」について、一つの答えを出す。15歳で卒業した後の自分への決意、自分が暮らす地域にどう関わっていくのかについて構想し、地域を支える人材としての自覚を育むことができるようになる。

単元目標：新たな課題を見出し、それらを解決するための方法を習得する過程で、自らの進路や社会とのつながりを意図的に見通しながら自分の考えを構想することができる。

〔課題の設定〕 見出した新たな課題を解決するために必要な力や方法について考察する。

〔情報の収集〕 教科等で、課題を解決するために必要な知識や技能を収集し、習得する。

〔整理・分析〕 教科等で学習したことを活用して、課題に対する自分の考えを構想する。

〔まとめ・表現〕 構想した自分の考えをまとめ、「15歳の決意」として表現し、全体で交流する。

**特別活動進路指導（進路説明会、三者懇談、進路決定）**

進路指導（進路説明会、三者懇談、進路決定）

- ・進路説明会→説明会を開き、進路選択に必要な情報を収集するための質問を行う。
- ・三者懇談→進路決定に向け、自分のやりたいことは何かを明確に説明し、そのために必要な力や方法が何かを明らかにする。

**外部の教育資源の活用「進路説明会」**

京都市内の公立高校・私立高校の先生に高校の概要、進路決定に向けての心構え、準備すべき具体的について説明してもらう。例えば、高校ではどんな人材を求め育てたいか、そのための取組は何か、費用はどのくらい必要かなど、生徒が主体的に自らの進路を選択するための情報を提供してもらう。事前に生徒が質問を準備し、高校の先生方に答えもらう場面を設け、一方的に説明を聞くのではなく、**対話を通して必要な情報を引き出す力**を身に付けるよう指導したい。

**外部の教育資源の活用「模擬投票」**

京都市選挙管理委員会事務局の協力のもと、模擬投票を体験する。選挙権が18歳から認められたことを受け、選挙のしくみ、なぜ投票するのかについて学習したのち、架空の政党による公約を聞いて、各政党が主張する政策の内容を検討し、必要に応じて質問しながら投票先を決定する。模擬投票を通して、3年後に実際に選挙に参加する資格を得たとき、**地域を支える判断について選挙を通じて行う自覚と、必要な見方・考え方を身に付ける**よう指導したい。

**教科等との関連**

- ・特別活動…集団の中において自己の理解を深め、自己のよさや可能性を生かす力、自己の在り方生き方、さらには地域の在り方を考え設計する力とは何かについて学習することで、現在及び将来の自己の生活、あるいは地域の課題を発見し、よりよく改善しようとする視点をもつ。
- ・道徳…「B 主として人との関わりに関すること」「C 主として集団や社会との関わりに関すること」について学習する。
- ・国語…自分の考えを構想し、解決に必要な情報を収集するため、適切な質問を考える。
- ・社会…課題を設定し、解決に必要な情報を収集して多面的・多角的に考察・判断し、自分の考えを表現することについて学習する。

【卒業前行事に向けて】

- ・音楽…よりよい合唱を作り上げるために必要な知識や技能について学習する。

**卒業前行事実行委員会による取組の進捗**

卒業前行事実行委員会を組織し、卒業前行事の企画・運営を進める。教師は活動を支援する形をとり、教師サイドで決定した内容も逐一生徒に連絡することで、情報の共有を図る。生徒が責任感をもって選択・判断を行えるよう支援し、生徒が主体性をもって活動できるようにする。